

# 監査結果

## 総合所見

### (1) 全体所見

今回も、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、市民と職員の合同チームによる現場確認やヒアリングは実施せず、すべて書面による状況確認となりました。チームメンバーが事務局より送付された監査資料の内容を参照して個人としての評価コメントを作成し、その後、個々のコメントを総合して評価、所見の作成を行いました。

書面監査の結果、「環境基本計画進捗状況監査」では多くの施策が概ね計画どおり順調に進捗していること、「環境配慮行動取組状況監査」では職員が環境への意識を高めて日々の環境配慮行動に取り組んでいることを確認できました。

### (2) 環境基本計画の進捗状況について

令和3年度からスタートした伊丹市環境基本計画（第3次）について、5つの基本目標ごとに成果指標の進捗状況、令和3年度の取組状況と令和4年度以降の実施予定を対象に点検しました。

成果指標14項目のうち、令和10（2028）年度計画目標に向けて順調に推移していることが確認できたものが8項目あり、このうち4項目で計画目標をすでに達成しました。

特に「基本目標2. 資源が循環する環境に配慮したまち」については、3つの成果指標すべてが単年度目標を達成しており、うち1つで計画目標を達成しました。施策の方向性に紐づく参考指標の進捗状況では、家庭ごみ対策に関する項目で顕著な成果があり、市民生活に密接に関わる取組に注力した結果として高く評価できる内容でした。

「基本目標1. 気候変動に対応するまち」のうち、成果指標①である「本市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量」については、単年度目標を達成しました。市有施設では換気をしながら空調設備を利用する必要があり、エネルギー消費原単位の低減を図りにくい状況にあります。こうした中、再エネ電力の導入や電気自動車の導入など新たな試みをしていることは高く評価できます。

単年度目標を達成できていないものは2項目ありましたが、これらはコロナ禍の影響が及んだものと考えられます。ここ近年で減少した市民活動の機会が回復していくことで、今後は改善が見込める内容と考えられます。

データが入手できず評価できなかった指標は4項目ありましたが、調査予定年次が明記されていたことから、次回調査の結果を待って評価したいと思います。

### (3) 環境配慮行動の取組状況について

全職員を対象としたクイズ形式の「環境マネジメントシステム取組状況チェックシート」を実施し、その集計結果を監査チームにて確認し所見を作成しました。全回答者の平均正答率は76.3%であり、昨年度に引き続き全体的に正答率が高い項目が多い結果となりました。市全体として高いレベルで職員の環境意識・行動が定着していることが確認できました。

設問ごとの正答率を見ると、昨年度と同様の項目では正答率に大きな変化が見られず、前回、正答率が低かった設問は今回も正答率が低かったことが明らかになりました。このことは、職員個人で復習が行われていないこと、集計結果を活用した周知が十分に行われていなかったことを

示す結果と言えます。2年連続で正答率が低かったのは、市役所庁舎における特定のごみ分別に関する項目です。この結果により、多くの職員が誤解しやすい分別方法が特定されたとも言えます。ポイントを絞って、適切な分別に関する情報発信・周知を実施していただくことで、容易に改善できると期待できます。

また、チェックシートに回答した職員の割合も昨年度とほぼ同程度で、大きな増加はありませんでした。所属によっては庁内システムによる回答ができないなどの制約もあるかと思いますが、年に一度、環境配慮行動の理解や実践について自己点検する機会であることを周知するとともに、回答あるいは高い正答率に対してインセンティブを付与するなどの工夫で、回答率を上げることも重要な課題であると考えます。

## 環境基本計画 進捗状況監査

### 令和3年度成果指標の進捗状況

評価記号	評価基準	項目数
◎	単年度目標の達成、最終年度目標も達成している。	4
○	単年度目標は達成しているが、最終年度目標は達成していない。	4
△	取り組んでいるが、単年度目標は達成していない。	2
—	評価できない（データ未入手）	4

※詳細については、【資料1】を参照

基本目標	環境指標	計画目標 (令和3年度)	令和3年度 実績	計画目標 (令和10年度)	令和3年度 達成状況
1. 気候変動に対応するまち	①本市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量	27,818 t-CO <sub>2</sub>	25,404t-CO <sub>2</sub>	22,505 t-CO <sub>2</sub> *	○
	②浸水対策達成率	83.86%	83.86%	84.26%	○
2. 資源が循環するまち	①発生抑制率	5.0%	6.9%	10.9%	○
	②資源化率	17.4%	17.8%	18.6%	○
	③最終処分量(埋立量)	7,262t	6,705t	6,719t	◎
3. 自然環境と共生し生物多様性が保全されるまち	①みどりに対する市民満足度	70.0%	—	80.0%	—
	②在来生物の種類数	193 種	198 種	193 種	◎
	③自然緑化活動等に参加している団体数・参加人数	125 団体 700 人	125 団体 396 人	125 団体 700 人	△
4. 良好な都市空間の整備と生活環境が保全されるまち	①環境基準達成率(水質(BOD))	100%	100%	100%	◎
	②地域清掃活動支援件数	1,100 件	686 件	1,100 件	△
	③景観に対する市民満足度	80.0%	—	80.0%	—
	④交通ネットワークに対する市民満足度	72.7%	—	73.0%	—
5. 環境意識と協働の輪が広がるまち	①環境イベント・講座等に参加した人数	5,250 人	11,978 人	5,250 人	◎
	②緑化や自然保護活動に参加した市民の割合	10.0%	—	10.0%	—

\* 計画目標(令和10年度) 22,505 t-CO<sub>2</sub> → 18,180 t-CO<sub>2</sub> 令和5年3月改定予定

## 環境配慮行動 取組状況監査

### ・環境マネジメントシステム取組状況チェックシート 集計結果

#### (1) 全体集計結果の概要

回答者 1153 人のうち、243 人が全問正解でした。

基本的な環境配慮行動については、多くが高い正答率となりました。特に「Q5 コピー機の使用  
方法」は昨年度同様に最も正答率が高く、96%の方が正解していました。

しかし、空調利用時の冬場室内温度設定 (Q2)、離席時のパソコンの扱い (Q3) については正  
答率がそれぞれ 71%、74%と比較的低い結果でした。これは昨年度も同様の結果でした。伊丹市  
役所での分別方法についても、正答率は昨年度とほぼ同様の結果でした。

表 1. 取組状況チェックシートの設問ならびに正答、正答率

設問		正答	正答率
基本的な環境配慮行動の実践について			
Q1	夏場の空調は、室温〇度を目安に設定する。	③28℃	91%
Q2	冬場の空調は、室温〇度を目安に設定する。	③19℃	71%
Q3	2 時間以上の離席の際は、パソコンを〇〇する。	②シャットダウン	74%
Q4	公用車の利用を削減するための行動として、間違っているものは？	②すぐに現場対応できるよう、資材などは一通り積んだままにしておく	93%
Q5	コピー機の使用方法について、環境に配慮したものは〇〇である。	①モニターでのチェックを行い、ミスプリントを減らす	96%
伊丹市役所でのごみの正しい分別について			
Q6-1	両面使用済みのコピー用紙	④資源物 (溶解)	90%
Q6-2	コーティングされた紙、シール台紙、コピー用紙の 包み紙	③資源物 (雑誌類)	67%
Q6-3	プラスチック製の包装 (カップ麺の容器、飲料容 器など)	②産業廃棄物	73%
Q6-4	付箋	④資源物 (溶解)	54%
Q6-5	水ですすいだプラスチック製の弁当がら	②産業廃棄物	74%
Q6-6	金属製の文具類	②産業廃棄物	92%
Q6-7	ペットボトルのラベル	②産業廃棄物	69%

市や国の環境に関わる動向について			
Q7-1	地域脱炭素ロードマップにおいて、政府及び自治体の建築物及び土地では、2030年には設置可能な建築物等の約50%に太陽光発電設備が導入され、〇〇年には100%導入されていることを目指す。	②2040	52%
Q7-2	地域脱炭素ロードマップにおいて、公共部門にて〇〇の調達が実質的に標準化されていることを目指す。	③再エネ電気	73%
Q8	新庁舎移転後に、あなたができる環境負荷低減につながる行動を1つ記入してください。	自由記載	

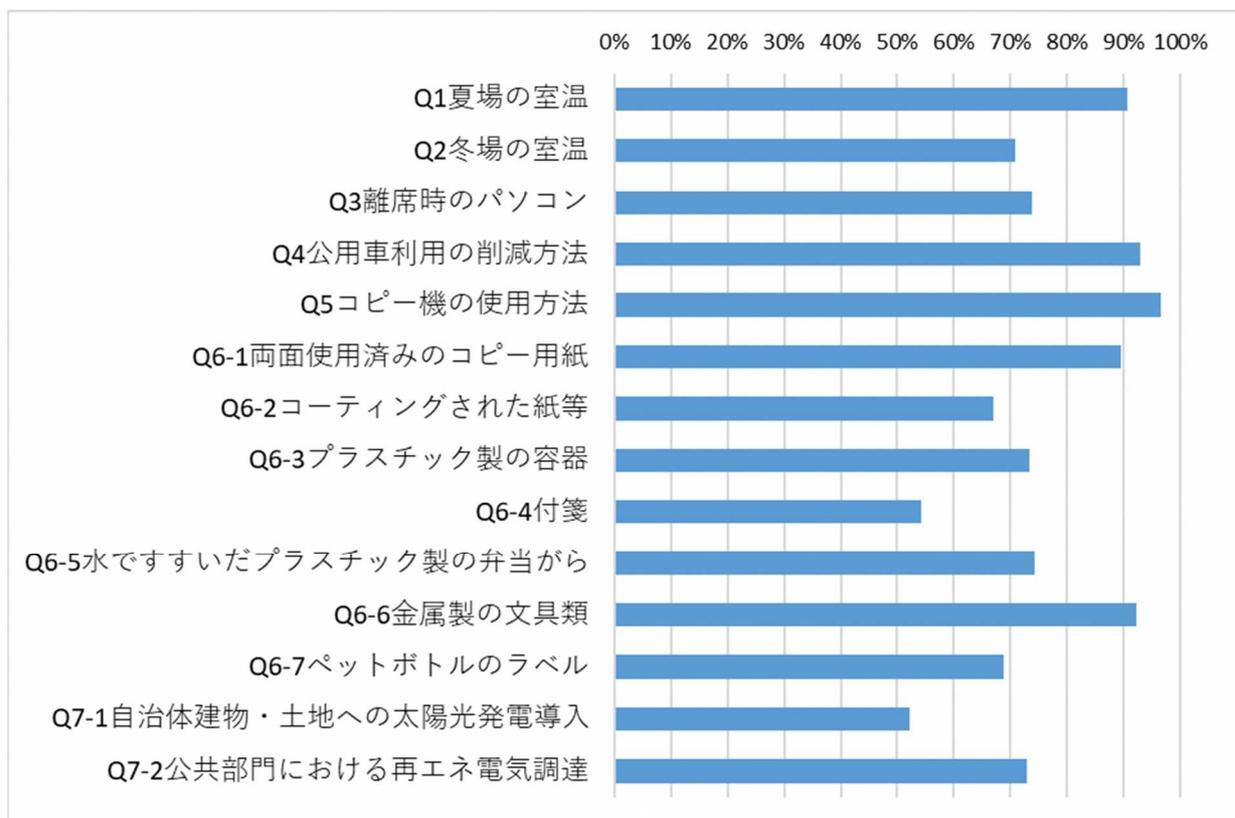


図1 設問別正答率